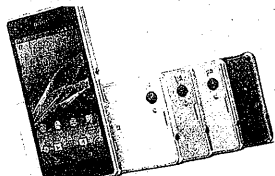


# 東カツオ4割安

要減、水揚げは増加 18



# スマ

ソニ

**発信力見逃さず**  
 資本金は45万円。15年間の全貯金でも足りず、一部は父親から借りた。設立目的は「テレビ番組の制作」「日用品雑貨の企画」などと記入した。15歳。それは印鑑登録ができるようになり、日本で会社を設立するには最も早い年齢だ。特別な

JK(女子高生)の文化を世界に……。都内の私立女子高に通う椎木里佳(16)が株式会社AMFを設立したのは2013年のバレンタインデー。15歳だった彼女は起業の壁を「渋谷に遊びに行くくらい感覚」で軽やかに越えた。



JK文化を発信する会社を立ち上げた椎木さん

## 恐るべき子どもたち

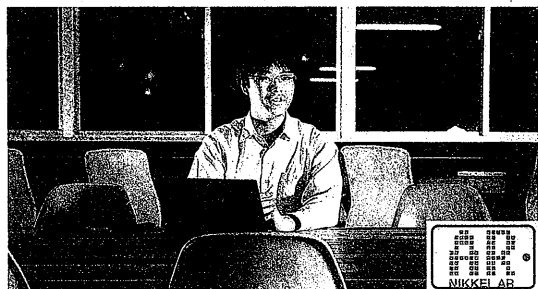
## 次代の寵児か、あだ花か

技術はなく、財務や法務も「専門家にお任せしています」。そんな彼女がなぜ起業できるのか。椎木は1997年生まれ。誕生時からパソコン、携帯電話、ネットに囲ま



れたデジタルネイティブだ。同世代の15歳起業家には中高生向けサイト「フリッジキャンプ」を運営するGENEXの三上洋一郎(16)がいる。特徴はネットにいつでもつながっていること。交流サイト(SNS)のツイッターやフェイスブックが一般向けにサービスを始めた06年は椎木らが小学校3年生のころ。同じ年の会社法改正で資本金1円でも会社をつくれるようになった。「マグノリアペーパー」が表参道に進出する

「たいです」「今から永遠の0見る!」……。渋谷や原宿周辺の街角を歩きながらツイッターやブログにその場で投稿する。椎木はツイッターだけで4千人超の読者を持つ。「女子高生起業家」のブランドが影響力の源だ。10年前ならとてもビジネスに結びつかなかっただろうが、SNSを通じて同世代への発信力をネット企業は見逃さない。サイバーエージェントは昨年5月、女子中高生向けサービスのアドバイザーに椎木を起用。スマ



中高生向けのインターネットサイトを運営する三上さん

逆風の中で起業  
 総務省の就業構造基本調査によると、10代の起業者数は12年に全国で800人。リーマン危機前の07年に比べ100人減った。ただ、逆風の中で10代女性の起業は100人から3倍に増えた。いつの時代も若者には

エネルギーがあふれ、発散の場を求めている。デジタルネイティブの恐るべき子どもたちにとってネット空間はその格好の場所かもしれない。10代起業家たちも玉と石が交じり、ほとんどは時代のあだ花に終わるだろう。だが、この子どもたちからビル・ゲイツやマーク・ザッカーバーグのような寵児(ちようじ)が現れないと誰が言い切れるだろうか。(敬称略)

▼Web刊↓紙面運動

無料アプリ「Aurasma」をダウンロード  
 「NIKKEIAR」をダウンロード  
 (詳細は電子版に)

本用アプリ「JKめざまし」を開発した。米国や台湾のCATV局もJK文化のネット動画を買いたいと打診してきた。売上高は本人の講演やメディアへの出演料などまだ微々たるもの。椎木は「企業へのプロデュース事業でお金を稼いでいきたいです」と話す。